

授業科目	言語聴覚障害特論				
担当者	山本一郎・名徳倫明・江頭智香子・五味田裕・余川ゆきの・澤井里香子・ST教員 他				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ①運動障害性発話障害が生じる神経的基礎を踏まえ、ディサースリアの障害レベルに応じた適切な訓練目標を設定して実施できるようにする。ディサースリア検査の評価データから総合的な分析を適切に行い、計画立案の考え方について述べる。(講師非公表)
- ②口腔の果たす2大機能である食べるということ、話すことについてその発生と発達について学ぶ。(山本)
- ③言語聴覚領域を行うに当たって知っておくべき薬の知識について学ぶ。(名徳・五味田)
- ④虐待問題について講義を行う。(江頭)
- ⑤摂食・嚥下リハビリテーションを行う上で、器質的口腔ケアによる口腔内保清は必須である。今授業では、口腔内アセスメント方法から、具体的な器質的口腔ケア方法について学ぶ。(余川)
- ⑥神経内科疾患のリハビリに必要な知識を学ぶ。(澤井)
- ⑦社会復帰とその支援について学ぶ。(講師非公表)
- ⑧国家試験を想定し、領域別問題に取り組む。(ST教員)

■ 到達目標

- ①ディサースリア検査の評価データからディサースリアの障害レベルに応じて、総合的な分析を適切に行い、計画立案ができるようにする。(講師非公表)
- ②発生と発達の視点から口腔機能を学び、様々な病態に対処できる知識を養う。(山本)
- ③薬物治療で言語聴覚領域に影響する薬について把握する。(名徳・五味田)
- ④虐待について理解を深める。(江頭)
- ⑤口腔内アセスメントが出来るようになる。器質的口腔ケアが出来るようになる。(余川)
- ⑥神経内科疾患の理解を深める。(澤井)
- ⑦社会復帰とその支援について理解を深める。(講師非公表)
- ⑧国家試験の受験にあたって受験対策を立て、実践できるようになる。(ST教員)

■ 授業計画

- 第1回 総論：ディサースリアの障害レベルとそれに対応した訓練について (講師非公表) (ST教員)
- 第2回 呼吸機能の治療アプローチ (講師非公表) (ST教員)
- 第3回 発声機能の治療アプローチ (講師非公表) (ST教員)
- 第4回 鼻咽腔閉鎖機能の治療アプローチ (講師非公表) (ST教員)
- 第5回 口腔構音機能の治療アプローチ (講師非公表) (ST教員)
- 第6回 発話速度の調節法1 (講師非公表) (ST教員)
- 第7回 発話速度の調節法と構音訓練など (講師非公表) (ST教員)
- 第8回 まとめ (講師非公表) (ST教員)
- 第9回 顔面・口腔の発生 口腔機能の発達 (山本)
- 第10回 唇顎口蓋裂児における哺乳・摂食障害とその対処法 (山本)
- 第11回 唇顎口蓋裂児における異常構音の分析と治療について
エレクトロパラトグラフィー (EPG) を用いた異常構音の分析と治療について (山本)
- 第12回 薬の基礎知識①用法・用量など (名徳)
- 第13回 薬の基礎知識②副作用・相互作用など (名徳)
- 第14回 薬の薬理作用 (摂食・嚥下に影響する薬剤) (名徳)
- 第15回 輸液の基礎と栄養 (名徳)
- 第16回 薬物治療の基礎 (用法・用量・副作用・相互作用、患者ケア 等) (五味田)
- 第17回 言語聴覚領域 (特に聴覚・嗅覚、摂食・嚥下機能等) に影響する薬 (五味田)
- 第18回 言語聴覚機能に影響する薬についての Q & A (五味田)
- 第19回 子供の虐待 歴史、制度の変遷、虐待の種類 (江頭)
- 第20回 虐待に関わる発達の課題 (被虐待児の心理的特徴等) (江頭)

- 第21回 虐待を取り巻く社会的背景（江頭）
- 第22回 虐待に対する対応 被虐待児の支援について（江頭）
- 第23回 オリエンテーション（歯科とは）～なぜ口腔ケアが必要なのか～（余川）
- 第24回 口腔ケアの手技（器質的、機能的口腔ケア実習）（余川）
- 第25回 社会復帰とその支援について
社会復帰を考えるうえで必要なこと職業復帰支援の実際～当事者の方からのお話（講師非公表）
- 第26回 社会復帰とその支援について
社会復帰を考えるうえで必要なこと職業復帰支援の実際～言語聴覚士からのお話（講師非公表）
- 第27回 神経内科疾患の理解：パーキンソン病を中心に（澤井）
- 第28回 神経内科疾患の理解：認知症を中心に（澤井）
- 第29回 言語聴覚士のための基礎知識 ～国家試験対策～（ST 教員）
領域別問題の実践 1
- 第30回 言語聴覚士のための基礎知識 ～国家試験対策～（ST 教員）
領域別問題の実践 2

■ 評価方法

第1回～8回で筆記試験90%、9～28回でレポート10%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

・授業前に事前に訓練手技について予め読んで準備物を準備してきてください。テキストを目を通しておくこと（予習1.0時間）。授業後に配布資料とテキストのそれぞれの治療アプローチ、訓練手技についての箇所を読み直して、実際に友人を対象に実施し、講義で行った実習の復習を行うこと（復習1.0時間）。

■ 教科書

書名：標準ディサースリアテキスト
著者名：西尾正輝
出版社：医歯薬出版

■ 参考図書

■ 留意事項

対面講義の場合は、訓練で用いる用具を予め用意しておくこと。訓練手技の演習は2人ペアになって行うので、予めペアを組む人を確認しておくこと。

・新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

実際の訓練において頻用する訓練手技ですので、確実に習得するように心がけてください。